

【一】 さて、九月ばかりになりて、出でにたるほどに、箱のあるを、手まさぐりに開けて見れば、人のもとに遣らむとしける文あり。あさましさに、(1) 見てけりとだに知られむと思ひて、書きつく。

疑はしほかに渡せるふみみれば「こやとだえにならむとすらむなど思ふほどに、むべなう、十月つごもり方に、三夜しきりて見えぬ時あり。つれなうて、(2) しばし試みるほどに。」など、気色あり。

これより、夕さりつ方、「内裏に逃るまじかりけり。」とて出づるに、心得で、人をつけて見すれば、「町の小路なるそこそこになむ泊まり給ひぬる。」とて来たり。さればよと、いみじう心憂しと思へども、言はむやうも知らであるほどに、「二、三日ばかりありて、曉方に門をたく時あり。さなめりと思ふに、憂くて開かせねば、(3) 例の家と思しき所にもしたり。」

つとめて、なほもあらじと思ひて、
嘆きつつ独り寝る夜をあくるまはいかに久しきものとかは知る
と、例よりは引き繕ひて書いて、移ろひたる菊に挿したり。返り言、

「(4) あくるまでも試みむとしつれど、とみなる召し使ひの来合ひたりつればなむ。いと理なりつるは。
げにやげに冬の夜ならぬ真木の戸も (5) 遅く開くるはわびしかりけり。」

(参考) 「大鏡」(兼家伝)

この(1)道綱(母君、きはめたる和歌の上手にておはしければ、この殿(1)兼家)のかよはせ給ひけるほどのこと、歌など書き集めて、「かげろふの日記」と名づけて、世にひろめ給へり。殿のおはしましたりけるに、門をおそくあけたりければ、たびたび御消息言ひ入れさせ給ふに、女君、

嘆きつつ独り寝る夜をあくるまはいかに久しきものとかは知る
いと興ありとおぼしめして、
げにやげに冬の夜ならぬ真木の戸も遅く開くるはわびしかりけり

問一 傍線部(2)「しばし試みるほどに」は、通例「どれだけ会わずにいられるのか、あなたの気持ちをしばらく試しているうちに」と解釈されるが、「試みる」対象にはもう一つの可能性があり、その方がこの場面で描かれる磊落な兼家にはふさわしいとされている。兼家は何を試しているのか、十字以内で簡潔に述べなさい。

問二 傍線部(1)(3)(5)を現代語に直しなさい。ただし、(3)は「例の家」を具体化すること。

問三 「疑はし」の歌に用いられている和歌の修辭を次の中からすべて選び、記号で答えなさい。

- ア 縁語 イ 掛詞 ウ 序詞 エ 枕詞

問四 傍線部(4)「あくる」には二つの意味が掛かっている。【例】にならって簡潔に答えなさい。

【例】まつ↓「待つ」と「松」

問五 波線部「例よりは引き繕ひて書いて、移ろひたる菊に挿したり」という行為にこめられた意味として適切なものを次の中から二つ選び、記号で答えなさい。

- ア 通常より改まった態度をとることによって、正式に離婚する意志を表現している。
イ いつもより改まった体裁にすることによって、夫と他人行儀な距離を置く意志を表現している。
ウ 現在より改まった書き方をする事によって、愛情があった初期の関係を再現しようとしている。
エ 色のあせてきた菊によって、夫の愛情が他の女へ移り自分も色あせた存在であることを表現している。
オ 枯れ始めた菊によって、自分が年老いたために夫の愛情が他の女へ移ったことを表現している。
カ 色が変わってしまった菊によって、他の女との愛情も長続きはしないだろうということを表現している。

問六 蜻蛉日記の本文と大鏡の本文を読み比べると、兼家と作者の行動が異なって描かれていることが分かる。兼家の行動の描かれ方に違いについて、「大鏡では(★)と描かれているが、蜻蛉日記では(★★)と描かれている」とまとめる時、それぞれの空欄に当てはまる内容を十五字以内で簡潔に答えなさい。

問一		問三		問四	
(1)					
(3)					
(5)					
問二					
★				問五	
★★					
問六					

解答例

【問一、三(完答)、四、五(完答)】①点×4

残り②点×5

計14点

問六		問二			問一
★★	★	(5) なかなか開かないのは づらいこで あったよ	(3) 町小路の女の家と 思われる所に 出かけた	(1) せめて見てしまったとだけでも 知られよう	自分の気持ちを
何	門				問三
も	を				ア・イ
せ	開				問四
ず	け				あくる↓「開くる」と「明くる」
に	て				
例	ほ				
の	し				
家	い				
に	と				
出	催				
か	促				
け	し				
た	た				
	問五				
	イ・エ				